

こうべの水道施設MAP



水道についての相談・お問い合わせ

引っ越しにともなう水道のご使用開始・中止のお申込み
 水道局お客さま電話受付センターへ ☎078-797-5555

水道局とみなさまを結ぶ身近な窓口、水道局センターへお気軽にどうぞ！
 料金の収納や水道工事に関する相談など、さまざまなサービスを行っています。

こんなときは
お住まいの
地区を担当する
センターへ

- お客様名義が変わるとき
- 長期間水道を使用しないとき
- 家の新築、取り壊しなどをするとき

| | | |
|----------------|--------------|---------------|
| 東部センター(東灘・灘区) | 東灘区田中町5-3-23 | ☎078-451-2020 |
| 中部センター(中央・兵庫区) | 中央区橋通3-4-2 | ☎078-341-5451 |
| 北センター(北区) | 北区日の峰1-14-1 | ☎078-582-4000 |
| 西部センター(長田・須磨区) | 須磨区大池町5-6-30 | ☎078-733-6601 |
| 垂水センター(垂水・西区) | 垂水区本多町2-11-1 | ☎078-784-0550 |

インターネット・携帯情報端末からもお申込みいただけます。
 インターネット <http://www.city.kobe.lg.jp/life/town/waterworks/water/madoguti/tetuzuki/03.html>
 携帯情報端末 <http://www.city.kobe.lg.jp/m/51/index.html> 発行/神戸水道局 平成28年5月

経営の持続

目指す姿
 公公・公民連携等を進め、高品質で信頼できる経営を維持します

経営基盤の強化

経営の効率化
公民連携・公公連携の推進
 民間企業や周辺事業者などと連携し、さらなる事業運営の効率化・最適化に取り組みます。一方で、業務のノウハウの継承や委託業務の監理・監督ができる人材の育成を行います。

固定的経費の削減に向けた取り組み
 受水費の負担軽減に向けた取り組みを強化します。施設の長寿命化とともに計画的な施設の更新を行うことで、投資の平準化と低減化を図ります。

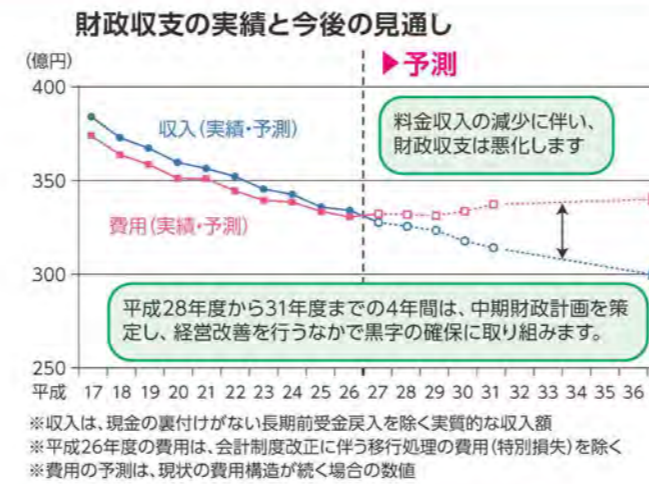
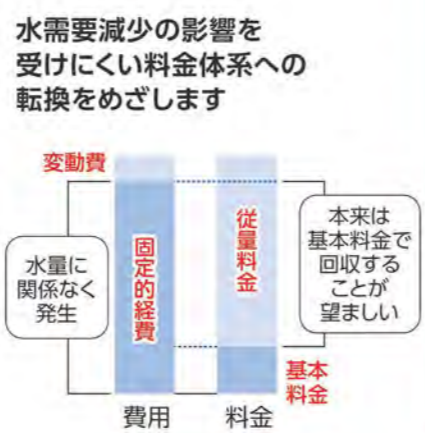
人材の確保・育成と社会貢献

人材育成と技術の継承
 人材育成と技術の継承に取り組み、限られた経営資源である「人材」を最大限に活用した事業運営を行います。

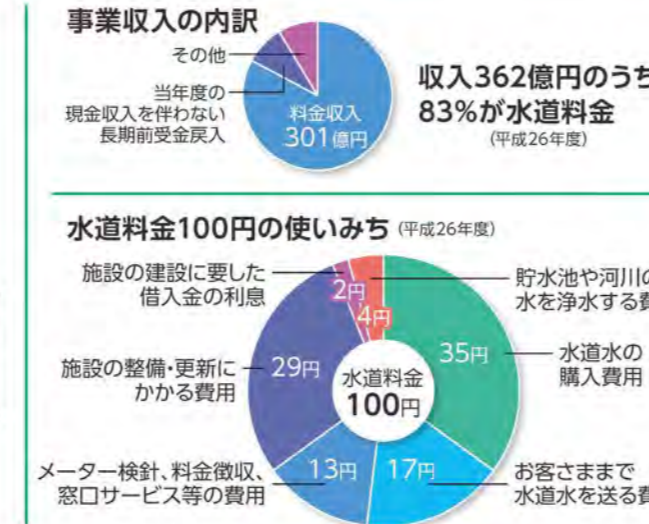


水需要減少社会における料金体系の検討

持続可能な料金体系の検討
 固定的経費が多くを占める費用構造を勘案した料金体系の見直しを検討します。基本水量の見直しや逓増制の緩和等の課題についても検討します。料金や費用負担のあり方について、市民のみならずとコミュニケーションを深めます。



国内外における社会貢献と技術の継承
 周辺事業者との技術連携を行うなかで技術力の向上に取り組めます。被災地支援への取り組みを行うなかで、震災を経験していない職員にもその技術を継承していきます。水国際貢献事業を推進し、水道事業者の視点からのコンサルティング等を行います。海外展開を志向する地元企業などを支援するとともに、水道施設の新規建設に携わる機会を通じて人材育成に寄与します。



広報とコミュニケーションの充実・強化

目指す姿
 市民の財産である神戸の水道について語り合い、水道の未来を共創します

市民ニーズや事業展開に適応した情報発信

経営状況に関する情報発信を強化し、市民のみならずと持続可能な水道経営についてのコミュニケーションを推進します。電話受付体制の充実、水道のトラブル発生時に必要な情報の発信などによる利便性の向上や、生活に密着した身近な水道情報の発信を推進します。リーフレット、ホームページ、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）など時代に応じた媒体を活用し、より多くの方に情報が伝わる広報を展開します。

ともに考え・創り・伝える神戸の水道

水道サポーターを育む取り組み
 水道に対する関心を持つきっかけづくりとして、イベントなどを通じた広報活動を行います。さらに、市民のみならずとコミュニケーションを深め、事業の課題を共有し、ともに行動する水道サポーターになっていただけるよう、取り組んでいきます。

水道サポーターとの協働
 水道サポーターとともに、市民のみならずと同じ立場・視点からの情報発信や広報を行うなど、水道をより身近に感じていただける広報活動に取り組めます。

地球にやさしい豊かな水文化の醸成

水源から蛇口まで水道水が配られる仕組みや水に関して理解を深めていただく「水育」を推進し、環境や防災等と一体的な広報に取り組んでいきます。高い技術と市民の努力に支えられた水道の歴史を市民のみならずと共有し、次の100年も水道を持続していくためにコミュニケーションを深めていきます。環境負荷の低減や健康増進につながる水道水の有効利用を提案し、人と環境にやさしい暮らしや都市活動の実現を目指していきます。

じゃぐちから飲めるおいしい神戸の水道水
 神戸の水道水は六甲山系などからの水と、琵琶湖・淀川水系からの「オゾン活性炭処理」された水です。きめ細やかな水質管理を行っており、「安全で上質な水」をみなさまにお届けしています。

より一層おいしくなる水道水の飲み方

- 水を冷やす: 飲み水は10〜15℃位が最もおいしく感じられるとされています
- 沸騰させる: 5分ほど沸騰するとカルキ臭が取り除かれます
- レモン汁を落とす: カルキ臭がやわらぎます



水道水の値段
 1リットル = 0.12円
 ペットボトル 500mL 0.06円
 お風呂一杯分 200L 24円
神戸市のご家庭の月平均使用水量15mの料金1,733円に基づいて計算

水道水の利用は地球にやさしい
 水道は水源からご家庭まで管路でつながっています。神戸市では、自然流下による配水システムが基本で、工場から配送する市販の飲料水と違って、水の輸送にかかるエネルギー消費は非常に少なくなっています。さらに、水をつくり、各家庭に配水する過程で発電するシステムの導入など、使用することがエコにつながる水道水の実現を目指して取り組みます。

市民・地域とともに
 未来につなぐ神戸の水道

神戸水道ビジョン 2025 概要版

平成28年3月
 神戸水道局

これからの事業環境

人口減少社会の到来

神戸市の人口は平成23年度をピークに減少に転じました。今後、水道事業を支える人口は減少していきます。

更新需要の増加

高度成長期に整備した多くの施設の経年化が進んでいます。さらに平成40年頃から配水管の更新需要が急増します。

南海トラフ地震等への備え

大規模な災害に備えて、阪神・淡路大震災や東日本大震災の経験を踏まえた対策が急がれます。

安定給水を確保するためには、水源から蛇口まで全ての水道施設を適切に維持する必要があります。施設規模の見直しや更新にあたり投資が必要となりますが、その費用を負担する人口は今後減少が進みます。これまでの事業の延長線上ではなく、事業の構造改革を図りながら水道事業の持続に取り組んでいく必要があります。

| 項目 | 平成16年度 | 平成26年度 | 平成37年度(見込) |
|--------------|---------------------|---------------------|---------------------|
| 使用水量が減少します | 186百万m ³ | 173百万m ³ | 160百万m ³ |
| 料金収入が減少します | 328億円 | 301億円 | 273億円 |
| 管路の経年化が進みます | 5.2% | 20.2% | 45% |
| 南海トラフ地震の発生確率 | 15%増 | 約25%増 | ※現行の更新ペースを維持した場合 |

基本理念と事業展開

基本理念 市民・地域とともに未来につなぐ神戸の水道

神戸の水道は給水を開始して以来100年以上にわたり、日常生活や都市活動に欠かせないライフラインとして神戸市の成長と発展を支えてきました。自己水源が乏しいにもかかわらず、三田市、宝塚市にまで広がる千叡貯水池や、遠く琵琶湖・淀川に水源を求めるなど、創設期から先人たちの柔軟で大胆な発想と市民の協力や近隣地域との連携に支えられて、今の神戸の水道の礎は築かれています。人口減少社会が到来し、水需要が減少し続けるなかで、今後も市民のみならず近隣地域と協力し合い、50年後、100年後にも市民が誇りに思う神戸の水道を育み、未来に引き継いでいきます。

水道システムの最適化

目指す姿 次世代に、蛇口からいつでも水が飲める水道システムを継承します

水道の仕組み

貯水池 市内に布設された長さは約4,800km (平成27年4月現在)

配水管 道路の下に布設された配水管から分岐して、各家庭に引き込むための給水管など蛇口までの部分

給水装置 道路の下に布設された配水管から分岐して、各家庭に引き込むための給水管など蛇口までの部分

浄水場 浄水場 6か所 126か所・257池
配水池 51か所・245台 (平成27年4月現在)

ポンプ場

水質管理 環境にやさしい水道づくり 安全でより上質な水道水をつくるために、貴重な水源の水環境を守る取り組みを推進しています。また、水をつくる過程で、必要となる電力を太陽光や水車で発電し、グリーンなエネルギーの利用に努めています。

水力発電設備 **太陽光発電パネル**

配水管の取替え工事 **水道管の漏水による道路陥没**

水源

水源の最適化

水需要減少への対応

水需要に応じて、自己水源の統廃合を検討し、阪神水道企業団等からの受水量の見直しに取り組みます。布引貯水池のブランド力の活用策を研究します。

安定給水の確保

事故・災害等に備えて複数の水源を維持します。市街地へのバックアップ機能強化のため上ヶ原浄水場の再整備を検討します。

貴重な水源の保全

最大の自己水源である千叡貯水池の水資源涵養に取り組みます。羽束川・波豆川流域水質保全協議会を通じて、流域住民等と協働で千叡貯水池上流域の水質保全活動に取り組めます。

千叡貯水池は、普段は北区の水がめですが、上ヶ原浄水場を通じて市街地にも給水することができる貴重な自己水源です。

千叡貯水池(全景)

基幹施設

基幹施設の更新・再編

基幹施設の計画的な更新を推進します。更新に合わせて、配水池の統廃合やポンプ設備のダウンサイジング等を行い、水道システムを再構築します。地域全体での水道システムの最適化を目指し、関係事業体と検討を進めていきます。

環境にやさしい水道

マイクロ水力発電設備の導入を促進するなど、民間企業とも連携しながら再生可能エネルギー活用の研究を進めます。

水質の管理

上質な水の供給

残留塩素の低減化 きめ細かく配水管の水質確認を行い、浄水場等で塩素注入量の調整を行います。

新鮮な水の供給

水源から蛇口まで、きめ細やかな水質管理を行い、より上質な水をお届けします。使用水量に比べて管路の口径が大きいと水道水が滞留するため、配水管の更新に合わせて、口径の縮小や小ブロック化を行います。

水質試験所での水質検査

災害への備え

目指す姿 大震災の記憶をつなぎ、あらゆる危機に強い水道をともに築きます

災害に強い水道施設の整備

津波被害対策

水管橋の津波による流出や漂流物の衝突による損傷に備えて、津波の被害を受けない河川上流側の水管橋の耐震補強や災害発生時に備えたマニュアル整備を行います。

さらなる耐震化の推進

配水管や基幹施設の耐震化を計画的に推進します。

配水管の耐震化が進むと、

- 地震等による被害が低減できます
- 被災した場合の復旧期間が短縮できます
- 応急給水時の市民のみならず水の運搬距離を短縮できます

土砂災害への備え

大雨の影響で土砂崩れが発生し、地中の管路の周りの土砂が流れ、管路が露出する被害が発生しています。土砂災害警戒区域にある施設の点検強化など、土砂災害による断水の予防・軽減を図ります。

土砂崩れによる管路の露出被害

バックアップ体制の強化

バックアップ施設の整備

基幹施設の複数系統化を計画的に実施します。

災害時における事業継続

災害や事故時においてもできる限り水道事業を継続できるよう、事業継続マネジメントの構築を目指します。

他都市との連携強化

緊急時連絡管の活用など、他都市との連携強化に取り組みます。

市民とともに築く災害対策

リスクコミュニケーションの強化

災害時給水拠点の整備推進

災害時臨時給水栓の整備を推進します。住民が使いやすいように既存の災害時給水拠点の再整備工事を行います。

自助・共助・公助の連携強化

地域住民が主体となって災害時給水拠点を開設できる連携体制を構築します。日頃から飲料水の確保や風呂水の汲み置きを働きかけるなど、災害に備えた意識啓発に取り組めます。

災害時給水拠点 (旧称・応急給水拠点)

- 貯水機能のある災害時給水拠点
- 災害時臨時給水栓
- 災害直後から水をお配りします
- 管路の復旧状況に応じて給水ができます

大容量貯水槽 応急給水